

2023年度 教育課程

専門分野 (看護の統合)

看護の統合と実践

構築の考え方

「看護の統合と実践」は、あらゆる医療活動の場・対象の状態や状況に応じて既習の知識・技術を統合し、対象への看護の必要性を判断し、適切な方法で看護を実践できる基礎的能力を養う領域として位置づける。

まず、各看護領域の対象特性や特定の場をふまえた看護過程の展開を学び、看護研究では、基礎的な研究的視点を養うことにより、対象の問題を解決する力や自己研鑽をする力を養う。

現在、医療の進歩で診療の補助はますます高度化・複雑化している。また、患者の高齢化とともに療養の場が多様化したことで、一層些細な気遣いが必要になっている。そのため、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきこと」を理解し、医療者が医療行為、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を養う。

さらにコロナ禍により一層の感染対策が求められるようになってきている。看護師には、専門的な知識に基づいた判断力と看護実践能力、それぞれの状況においてのマネジメント力が一層求められている。このような状況に対応していけるように看護管理・医療安全を学ぶ。

また、近年の地球温暖化に伴う気候変動や地震等自然災害の頻度や規模が拡大し、被災病者への医療・看護への期待も大きくなっている。医療や看護の活動の場は国内外にかかわらず拡大しており、看護の国際貢献も求められるようになってきている。あらゆる医療活動の場や人々の多様なニーズに応えられるように救急・災害看護、国際看護を学ぶ。

本領域では、知識の習得にとどまらず、想定した場面の中で、既習の知識や技術を想起し統合して使うことを体験することや、臨床に近い環境下での演習を強化することにより、卒業後の臨床現場にスムーズに適応できることをめざす。また、看護師の責務を自覚し、広い視野を持ち、主体的な学習の必要性や看護を追求する姿勢を強化する領域とする。

これらのことから、本科目を設定し、授業の科目構造は、看護の統合と実践Ⅰ～Ⅴ 5単位（90時間）並びに看護の統合と実践実習2単位（90時間）とし、合計単位数は7単位（180時間）とする。

看護の統合と実践Ⅰでは、各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。

看護の統合と実践Ⅱでは、看護実践を研究的な視点で考察する意義と、看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅲでは、看護を組織として統括・管理する立場から理解し、チーム医療を担う一員としての役割や態度、看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解するとともに、安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅳでは、救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに、国際看護の基本理念とその概要を理解する。

看護の統合と実践Ⅴでは、複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践、多重課題など、対象の状況に合わせて看護を考え、優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する。

看護の統合と実践

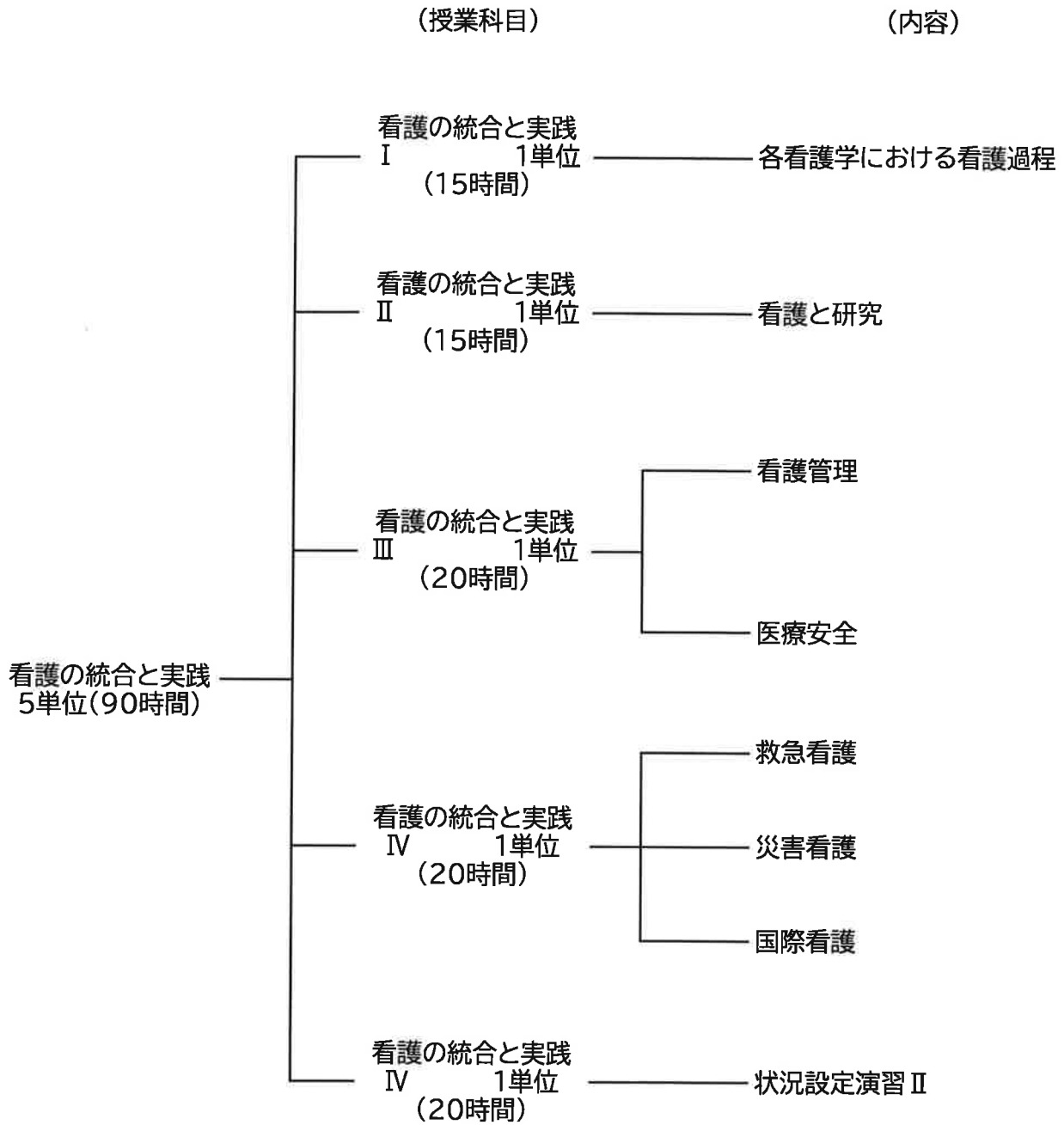
目 的

既習の知識・技術を統合し，対象の特性や場の特性に応じた看護を
実践できる基礎的能力を身につける。

目 標

- 1 あらゆる医療活動の場におけるチーム医療および他（多）職種との
連携協働を理解する。
- 2 看護をマネジメントする基礎的能力を習得する。
- 3 医療安全の基礎的知識を習得する。
- 4 既習の知識・技術を統合し，対象の状況に合わせた看護実践能力を
習得する。

看護の統合と実践 科目構造



科目名	看護の統合と実践 I (各看護学における看護過程)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	本校職員						
ねらい	各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 小児における看護過程 1) 小児の看護過程の特徴 2) 小児看護の展開に必要な視点						講義 GW
3回	2 周産期における看護過程 1) 周産期の看護過程の特徴 2) 母性看護の展開に必要な視点						
4～6回	3 老年期における看護過程 1) 老年期にある対象の看護過程の特徴 2) 老年期にある対象の看護の展開に必要な視点 4 在宅における看護過程 1) 在宅看護における看護過程の特徴 2) 在宅看護の展開に必要な視点						
7回	5 精神における看護過程 1) 精神に障害をもつ対象の看護過程の特徴 2) 精神看護の展開に必要な視点						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) 各看護学領域のテキスト						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・各領域の対象特性を予習して臨むこと。 ・既修の看護の基本となる技術Ⅲ (看護過程) の復習をして臨むこと。						

科目名	看護の統合と実践Ⅱ（看護と研究）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある教育者）						
ねらい	看護実践を研究的な視点で考察する意義と、看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 看護研究とは 2 なぜ看護研究を学ぶのか 3 文献レビューとその方法 1) 文献の種類 (1)論文 (2)学術図書 2) 一次文献と二次文献 3) 文献レビューの目的 4) 文献検索の方法 5) 文献クリティーク (1)文献クリティークの意味と方法 4 研究における倫理的配慮						講義
3回	文献クリティークの実際						演習
4～6回	5 看護研究とケースレポートの関連 1) ケースレポートとは 2) 看護実践を振り返る意義 3) ケースレポートの進め方 (1)タイトル (2)はじめに (3)事例の紹介 (4)看護の実際 (5)考察（体験の振り返りと意味づけ） (6)結論（課題の明確化） (7)文献 6 看護研究の方法 1) リサーチクエスト 2) 研究デザイン 3) 研究計画書の作成 4) 論文発表の方法 5) 論文要約						講義
7回	論文要約の実際						演習
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験 レポートの内容 レポートの提出状況課題への取り組み状況					総合的に評価する。	
必須資料	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。 ・必要時、課題となる文献等は適宜準備する。						
履修上の留意事項	・課題論文を提示した場合は、各自読み込んだうえで授業に参加すること。 ・GW、演習には積極的な参加姿勢を望む。						

科目名	看護の統合と実践Ⅲ（看護管理，医療安全）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師）						
ねらい	看護を看護師個人としての視点だけでなく，組織として統括・管理する立場から理解し，チーム医療を担う一員としての役割や態度，看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解するとともに，安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。						
回数	内 容						授業形態
< 看護管理 > 1～3回	1 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは (1)看護管理の定義 (2)看護管理学の基本的要素 2 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 (1)医療安全のしくみ (2)医療事故対策（インシデント，アクシデント，インシデントレポート） (3)院内感染対策 4) チーム医療 5) 看護業務の実践 (1)看護業務 (2)看護基準と看護手順 (3)情報の活用 (4)日常業務のマネジメント						講義
4・5回	3 看護サービスのマネジメント 1) 組織としての目標達成のためのマネジメント 2) 看護サービス提供のしくみづくり (1)看護単位 (2)看護ケア提供システム 3) 人材のマネジメント 4) 施設・設備環境のマネジメント 5) 物品のマネジメント 6) 情報のマネジメント 7) 組織におけるリスクマネジメント 8) サービス評価 4 マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織の調整						
< 医療安全 > 1回	1 ヒューマンエラーの概念（人はなぜ間違いを犯すのか） 2 医療事故と看護業務 1) 医療事故における2種類の過失 2) 医療行為に関連した事故と関連しない事故 3) 看護業務と看護事故の種類						

2・3回	3 看護事故の構造 4 看護事故防止の考え方 1) してはならないことをしない 2) すべきことをする 5 患者に投与する業務における事故防止 1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器での事故防止 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服と薬業務と事故防止 6) 経管栄養(注入)業務と事故防止 6 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 1) チューブ管理と事故防止	講義 GW
4・5回	7 療養上の世話業務と事故防止 1) 転倒転落事故防止 2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3) 異食行動防止 4) 入浴中の事故防止 8 業務領域を超えて共通する患者間違いと発生要因 1) 業務領域を超えて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発する多重課題, タイムプレッシャーと業務途中の中断 9 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 統合 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 看護の統合と実践② 医療安全 第2版 (メディカ出版) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 (メヂカルフレンド社)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	看護の統合と実践Ⅳ（救急看護，災害看護，国際看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師）						
ねらい	救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに，国際看護の基本理念とその概要を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<救急看護 > 1・2回	1 救急救命状況にある対象の特徴 2 救急救命処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 急変時の初期対応 (1)安全と状況の確認 (2)ABCD 評価 (3)症状の情報収集 (4)医師への連絡と救急処置準備						講義
3回	2 救急蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置 (1)気道確保 (2)呼吸の確認 (3)胸骨圧迫（心臓マッサージ） (4)人工呼吸 (5)AED による除細動 3) 二次救命処置 4) 院内急変時の対応						
<災害看護 > 4～6回 (45分)	1 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害と感染制御 4) 災害医療の特徴 (1)災害医療実施のための体系的アプローチ（CSCATTT） (2)災害サイクルから考える災害医療 (3)我が国の災害医療対応の整備 (4)NBC 災害への対応 5) 災害と情報 6) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 2 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期						

	<p>4 災害時に必要な看護技術</p> <p>1) 応急処置の原則</p> <p>2) 止血法</p> <p>3) 包帯法</p>	
7・8回	BLS 講習・包帯法	演習
<p><国際看護></p> <p>1・2回</p>	<p>1 国際看護学とは</p> <p>1) 国際看護学の定義</p> <p>2) 国際看護学の対象</p> <p>3) 国際看護学に関連する基礎知識</p> <p>4) グローバルヘルス</p> <p>5) 国際協力のしくみ</p> <p>2 国際看護活動の実際</p> <p>1) 文化を考慮した看護</p> <p>2) 開発協力と看護</p> <p>3) 国際救援と看護</p>	講義
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (参考等)	系統看護学講座 統合 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ】(医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・演習の時間は限られているので、積極的な参加態度を臨む。また、わからないところは積極的に質問し、技術習得に努めること。	

科目名	看護の統合と実践Ⅴ（状況設定演習Ⅱ）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （30時間）	対象 年次	3年
担当者名	本校職員						
ねらい	複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践，多重課題など，複雑多岐化する看護現場に対応して，対象の状況に合わせて看護を考え，優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 優先順位の決定と多重課題への対応 1) 多重課題とは 2) 多重課題の種類と回避する方法 (1) 予測できる課題と予測できない課題 (2) スケジューリング (3) 予測できる課題への対応 (4) 予測できない課題への対応 3) 多重課題発生時の対応の原則 4) 優先順位の理由と判断						講義
3～6回	2 対象の状況に合わせた看護実践 1) 課題の説明 多重課題が同時に発生する場面の事例をもとに，対象の状態やおか れている状況から優先順位を判断し対応する。 ・優先度1：重要度が高く緊急度も高い状況 ・優先度2：重要度は低い緊急度は高い状況 ・重要度は高い緊急度は低い。 ・重要度は低く緊急度も低い。						講義 GW
7～10回	2) ブリーフィング・実施・デブリーフィング						演習
11～15回	タスクレング（反復技術練習）※ 卒業時到達度Ⅰ・Ⅱの技術						技術練習
	・点滴静脈内注射の固定 ・経管栄養 ・全身清拭・寝衣交換 ・採血 ・便器・尿器介助 ・心電図モニター装着 等						
評価方法及び観点	レポート課題で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・グループワークや技術試験に向けた技術練習には積極的な授業姿勢を望む。・特にOSCE（客観的看護実践能力評価＝試験）の事前学習・練習はメバ`と協力して臨むこと。なお，卒業時到達レベルⅠ・Ⅱの技術習得に不足がある場合は，自己練習のうえ，再試験を課すことがある。						